二〇二一年五月八日

春惜しむバス降りてより浜の路　凡士

夏めくや松浜抜けて海の風　わかば

潮の香を乗せて五月の来たりけり　更紗

里若葉鎮守の神馬散歩中　よう子

リハビリの歩け歩けと若葉風　かかし

端艇漕ぐ二十四の腕風青し　凡士

千手なす寺宝の松の緑立つ　うつぎ

新緑に包まれてをる大伽藍　わかば

連弾の駅前ピアノ春の宵　うつぎ

大木の姿を借りて懸かり藤　こすもす

観光船を鷭一列に横切りぬ　なつき

郭公の声の研ぎ石切場　素秀

吊り橋の一歩一歩に谿若葉　はく子

あご飛んで海の青さよどこまでも　よし子

少年に帽子拾はれ青嵐　むべ

豌豆の花蝶のごと風に舞ふ　かかし

しみじみと卒寿噛み締め春惜しむ　宏虎

激つ瀬に水鞠飛びて夏来る　愛正

祝日や春蘭の花時計　更紗

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年五月九日